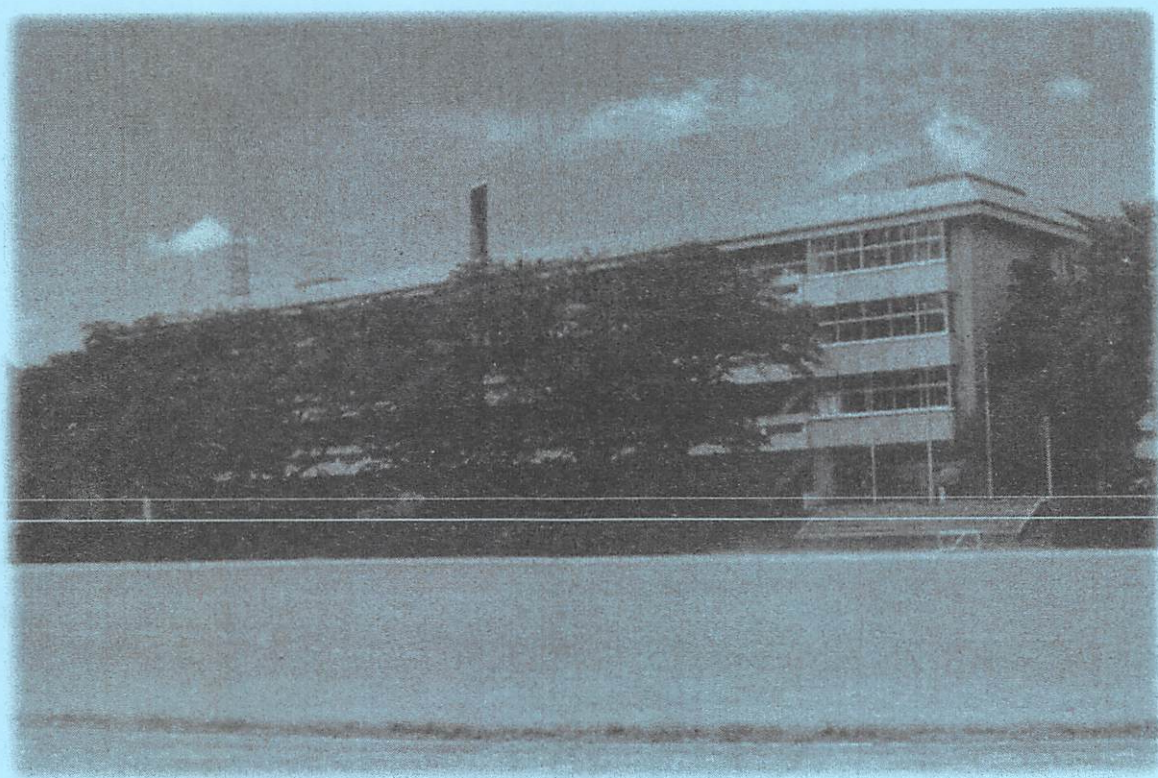


第75次印旛地区教育研究集会
(社会科教育・中学校)

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を目指した授業実践
～学習者の多様性に対応した授業デザインの工夫～



酒々井町立酒々井中学校
鳴海 翔太

目次

～本編～

1. 研究主題	… P 2
2. 研究概要	… P 2
3. 学習指導要領との関連	… P 2
4. 印教研の研究主題から	… P 2、3
5. 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の社会科における意義	… P 3
6. 自ら学習を調整すること（自己調整）について	… P 3、P 4
7. 生徒の実態	… P 4
8. 仮説	… P 5
9. 実践方法	… P 5、6
10. 指導計画	… P 6、7
11. 実践結果	… P 8～10

～資料編～

資料1 「個別最適な学び」と「協働的な学び」に関する資料	… P 1
資料2 令和6年度標準学力テストの結果	… P 2
資料3 定期テストの結果	… P 2
資料4 アンケート結果	… P 2
資料5 実践モデルプログラムのチェックシート	… P 3
資料6 「学習の見通し」についての資料ー学習計画表ー	… P 4
資料7 「学習課題を解決するための活動」についての資料 ーマトリックス表ー	… P 5
資料8 「学習課題を解決するための活動」についての資料 ーイメージマップー	… P 5
資料9 「学習課題を解決するための活動」についての資料 ー意見を共有（ワークショップ方式）ー	… P 5
資料10 「学習課題を解決するための活動」についての資料 ー生徒のノート1ー	… P 6
資料11 「学習課題を解決するための活動」についての資料 ー活動の様子ー	… P 6
資料12 「学習課題を解決するための活動」についての資料 ーノート作りができない生徒への対応ー	… P 7
資料13～16 生徒のノート2～5	… P 7～9
参考文献	… P 10

1. 研究主題

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を目指した授業実践
～学習者の多様性に対応した授業デザインの工夫～

2. 研究概要

令和3年1月の中央教育審議会答申(資料1)において、新しい時代の学校教育の姿として、「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現」が提言された。この答申の中で、子供一人一人が自立した学習者として学び続けていくことが求められている。本研究では、自立した学習者の育成に向け、中学校社会科における「個別最適な学び」と「協働的な学び」のあり方と具体的な実践方法について考察する。

3. 学習指導要領との関連

学習指導要領では、アクティブ・ラーニングの深化として「主体的・対話的で深い学び」を求めている。この中で、「個別最適な学び」は「主体的な学び」の実現手段とされている。これにより、生徒の多様な背景と能力に応じた「資質・能力」の育成と、主体的・対話的で深い学びの実現を目指している。これは「教師が一斉に教える」から、「生徒が自ら学ぶ」への転換を意味し、教育の個別最適化と共生社会への対応にもつながる重要な視点である。また、小中学校社会科の共通の目標として「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す」とある。社会の形成者としての力を培うことは社会科の本来の使命である。

知識基盤社会やグローバル化が進む今、児童生徒に基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせ、自ら学び自ら考える力を培うことはこれからの社会の急激な変化に対応するために必要なことだと考える。つまり、「個別最適な学び」は、中学校社会科において、学習指導要領が求める深い学び・社会参画に向けた資質・能力の育成に直結すると考えられる。

また、「協働的な学び」は、「対話的な学び」の実現手段とされている。教師と児童生徒、または児童生徒同士が意見を交流しながら、課題に対して多面的・多角的に考える過程が重視される。学習指導要領における社会科の目標には、「社会的事象について理解を深め、公正な判断力やよりよい社会の形成に参画する態度を育てる」とあり、これはまさに、他者との対話や協働を通じて多様な価値観を理解し、よりよい社会を考える力を育てることを意味している。つまり「協働的な学び」は、中学校社会科において、学習指導要領が求める、現代社会の諸課題を生徒が協働して考察・判断・表現する「深い学び」を実現する本質的な手法であると考えられる。

4. 印教研の研究主題から

よりよい社会の実現に寄与する「生きる力」を培う社会科学習
～自ら課題を見だし、自らの考えを表現できる児童生徒の育成を目指して～

「自分の考えを、言葉や図などで表現すること」、「相手にわかるように、自分の考えを表現すること」など単なる知識・技能の習得だけでなく、社会で生かせる力の育成が各所で課題として挙げられている。生徒には「生きる力」を培う基礎として、社会的・歴史的な事実をもとに調べ、考え、まとめ、表現する力の向上が求められている。ICTの利活用の推進を含め、コロナ禍での活動の工夫についても積極的な取組の必要性が増し、今後の在り方を追究していかなばならない。印教研社会科研究部はこれらを踏まえ、学んだことを実生活や実社会において、どのように生かすことができるのか、自分にも関わることがあるのではないかと考え続けることができる児童生徒の育成を目指している。そこで本研究では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を通じた授業で多様な立場や考えを理解し、話し合いを通じて考えを深めることができ、社会的な課題を、他者と協力して探究しながら自らの考えを形成できる自立した学習者の育成を目指す。

5. 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の社会科における意義

文部科学省は、「個別最適な学び」とは、学習者一人ひとりの理解度、関心、学び方などの多様性に応じて最適な指導・支援を行うことと定義している。これは、文部科学省が提唱する「主体的・対話的で深い学び」の「主体的な学び」の中心的要素の一つである。これは一斉授業型の限界を補完し、生徒の多様性に応える教育の在り方である。社会科は地理・歴史・公民といった多岐にわたる分野を扱い、多様な情報の中から自らの考えを形成する力が求められる。さらに学習指導要領では、「地理的・歴史的・公民的な見方・考え方」を働かせて、課題を捉え、多面的・多角的に考察する力を育てることを重視する。そのため、「個別最適な学び」によって、生徒が自分の関心のある社会課題や地域の問題に焦点をあてて探究しやすくなり、見方・考え方を深める機会が増える（学習の個性化）。また、社会科は抽象的な内容や高度な資料読解も含まれるため、発達段階や読解力の差が学習に影響を与えやすい。個別最適な学びでは、習熟度に応じた教材の選択や支援によって、誰もが理解を深められるようにする工夫が可能である（指導の個別化）。これらの点で社会科は「個別最適な学び」との親和性が高いと考える。

また、「協働的な学び」とは、他者と対話・協力しながら課題の解決や探究を進め、互いに学び合いを深める学習のあり方を指す。これは、文部科学省が提唱する「主体的・対話的で深い学び」の「対話的な学び」の中心的要素の一つである。この対話的な学びによって、多様な立場や考えを理解し、話し合いを通じて考えを深めることができ、社会的な課題を、他者と協力して探究することができる。このように社会科では、「市民性の育成」「合意形成能力」「多角的な思考力」の土台を築く上で「協働的な学び」は不可欠であり、現代社会に必要な資質・能力の育成に直結すると考える。

6. 自ら学習を調整すること（自己調整）について

令和3年1月の中央教育審議会答申において、2020年代を通じて実現すべき『令和の日本型学校教育』の姿として、子供一人一人が自立した学習者として学び続けていくことが改めて焦点化され、「これからの学校教育においては、子供がICTも活用しながら自ら学習を調整しながら学んでいくことができるよう『個に応じた指導』を充実することが必要である」と示され

- ている。この自ら学習を調整していくという言葉の説明を要約すると次のように理解できる。
- 自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら学ぶこと
 - 自ら学習の目標を持ち、進め方を見直しながら学習を進め、その過程を評価して新たな学習につなげること
 - 学習の目標や教材について理解し、計画を立て、見通しをもって学習し、その過程や達成状況を評価して次につなげること

この言葉を手がかりに生徒が自ら学習を調整する姿とその活動を促す学習指導を具体化していきたいと考える。

7. 生徒の実態

本校は、酒々井町にある唯一の中学校であり、来年度で開校80周年を迎える。全校生徒407名（全20学級、特別支援学級等含む）で構成されている。大室台小学校と酒々井小学校の2校から入学する生徒がほとんどであり、保・小・中の教職員の連携を密にしていることから町全体で大切に見守られている学校である。

今回対象となっている現在2学年の事前アンケート（資料4、実施時1学年）を通して、「社会科の学習が好き」と答えた生徒は6割を占める。「社会科に関するメディアをみる」と答えた生徒が7割弱いることから分かるように、社会科の授業に対して高い関心を持ち、地理や歴史の学習内容にも意欲的に取り組んでいる。「グループで考えたり、お互いの意見を共有したりする活動は好き」と答えた生徒が8割以上を占めており、グループ活動では仲間と協力しながら課題解決に向けて活発に意見を出すなど、集団の中での役割を果たそうとする姿勢が見られる。また、テスト前の学習やワークにも計画的に取り組む、基礎的な内容の理解には努力が感じられる。

しかし一方で、定期テストの平均点は高くなく（1学年時定期テスト4回平均55.7点）、学習した内容の定着や活用の面で課題が見られる。特に「自分の考えをまとめる作業が好き」という回答が4割に満たない点に表れているように、資料をもとに考えを述べたり、自分の意見をまとめたりする場面では、戸惑う様子が見られ、口頭や記述で自分の考えを表現することが難しい状況にある。また、「自分で課題を見いだして、追究することができる」の問いに対して否定的な回答が6割以上いることから分かるように、与えられた課題に取り組む姿勢は確立されているものの、自ら問いを立てて調べたり、資料をもとに自分なりの考えを深めたりするような主体的な学習活動にはやや消極的な面がある。さらに、生徒の中には、ノートを取ることが苦手であったり、理解することに時間がかかり授業についていけなかったりする生徒も複数名いる。

今後は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を目指した授業を通して、個々の多様性を理解して授業を行いながら、社会的な見方・考え方を生かした問いを立てられる力を身に付け、課題解決のために、協働する中で試行錯誤し、自分なりの考えをもったり、意見を発信したり、行動できる生徒の育成が必要である。

8. 仮説

生徒の多様性に応じた授業を展開する中で、自らの学習を調整する機会を与えることで、課題を見いだし、自らの考えを形成できる自立した学習者を育てることができるだろう。

9. 実践方法

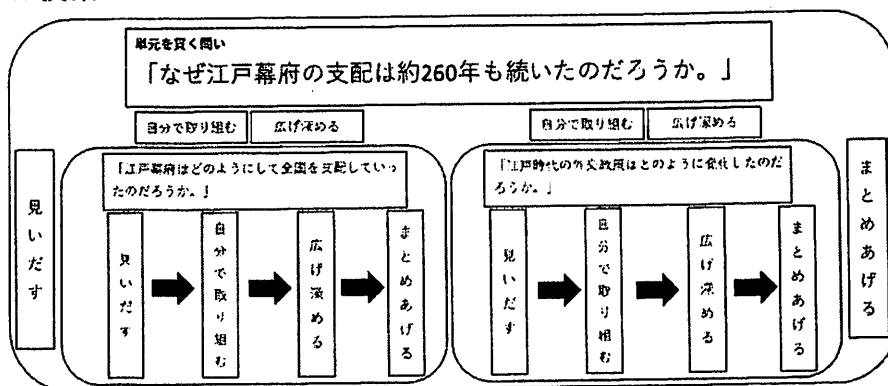
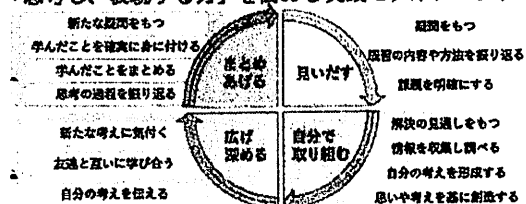
① 実践モデルプログラムを基に作成する。

- ・ 単元や題材など内容のまとまりを見通して計画をする。

※今回は単元の大枠と内容のまとまりごとで実践モデルプログラムに基づき授業を計画する。

- ・ 実践モデルプログラムを活用した授業のためのチェックシートを活用する。

「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム



② 「学習の見通し」「学習課題を解決するための活動」「学習のふり振り返り」の3つの場面で、学習を調整する機会をつくる。

②-1 「学習の見通し」

- ・ 学習計画表（資料6）を活用し、毎時間計画を立てながら実行し、授業の終わりには振り返りを行い、学習を調整しながら単元を進めていく。

※今回はグーグルスライドで班ごとに自分の計画表を共有できるようにした。

※タイピングが苦手な生徒は紙ベースで対応した。

②-2 「学習課題を解決するための活動」

- ・ 基本は個人で追究していくが、必要に応じて協働的に学んでいく形をとる。

※必要があれば席を移動する、黒板を使用する、タブレット端末を使って共同作業を行うことを可能とした。

- ・ 問いを立てる場面で協働的な学びを取り入れる。

※マトリックス表の作成…班隊形になり用紙に記入したら他の班に回して、他の班は不足があれば追記して学級全体で完成させる。

※イメージマップの作成…班隊形になり用紙に記入したら隣の班に回して、他の班は不足があれば追記して元の班に返す。

- ・ 調べたことや意見を共有する活動を取り入れる。（気づきスターを探せ）

※ワークショップ方式や発表方式で調べたことを共有し、新たな発見や気づいたことを見つけたら、ノートに色ペンで☆マークを書き、内容をノートに書き留める。

②－３「学習のふり返り」

- ・毎回の授業のふり返りを学習計画表に入力する。
- ・内容ごとのまとめや単元を貫く問いに対するまとめはノートに書く。

③ 検証授業：単元「第４章 近世の日本 ２節 江戸幕府の成立と鎖国」

●「教材観」

本単元は中学校学習指導要領（歴史的分野）の(3)近世の日本のイ「江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解すること。」を受けて設定したもの。

本単元のねらいは、江戸幕府の政治の特色を考えさせ、幕府と藩による支配が確立したことを、「江戸幕府の成立と大名統制」、「鎖国政策」、「身分制度の確立と農村の様子」、「鎖国下の対外関係」の学習を通して理解させることである。

●「指導観」

本単元では、身分制度の確立や参勤交代制度、武家諸法度の制度など、鎖国以外の政策も用いて江戸の幕府が安定した政権作りを進めたことを理解し、単元を貫く問いについて考察しながら課題を見だし、自分の考えを自分の言葉で表現できるようにさせる。イメージマップやマトリックス、他者との意見共有を取り入れることで、主体的に学びながらも自己の学習を調整し、多面的・多角的に考察できるような足場かけ（スキヤフオールディング）を用意する。

１０．指導計画

時	主な学習内容	評価規準
１ 見 い だ す	・学習課題（単元を貫く学習課題）の提示 ◎「なぜ江戸幕府の支配は約 260 年も続いたのだろうか。」 ・学習計画表の作成 ・既習事項の復習（小学校の内容も含む） ・本時の課題を提示 「江戸幕府はどのようにして全国を支配していたのだろうか。」 ・課題に対する予想を学習計画表に書く ・学習計画表にふり返りを書く	江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子などを基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解している。（知技）
２ 自 分 で 取 り 組 む	・学習計画表の作成（本時の課題は前回と同様） ・マトリックスを書く ・学習計画表に自分目標を書く ・調べ深める ・学習計画表にふり返りを書く	統一政権の諸政策の目的に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、江戸幕府の成立について、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。（思判表）

3 広げ 深める ・ まとめ あげる	・学習計画表の作成（本時の課題は前回と同様） ・調べ深める ・意見を共有（気づきスターを探せ）※ワークショップ方式 ・まとめを書く <u>「江戸幕府はどのようにして全国を支配していたのだろうか。」</u> ・学習計画表にふり返りを書く	江戸幕府の成立について、自分で設定した課題を主体的に追究、解決しようとしている。（態度）
4 見 い だ す	・学習計画表の作成 ・本時の課題を提示 <u>「江戸時代の外交政策はどのように変化したのだろうか。」</u> ・課題に対する予想を学習計画表に書く ・学習計画表にふり返りを書く	鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解している。（知技）
5 自 分 で 取 り 組 む	・学習計画表の作成（本時の課題は前回と同様） ・イメージマップをつくる ・学習計画表に自分目標を書く ・調べ深める ・学習計画表にふり返りを書く	江戸幕府が17世紀の前半に対外政策を変化させて「鎖国」した理由を、宗教の統制、外交と貿易の統制、大名の統制などから考察し、表現している。（思判表）
6 広 げ 深 め る ・ ま と め あ げ る	・学習計画表の作成（本時の課題は前回と同様） ・調べ深める ・意見を共有（気づきスターを探せ）※ワークショップ方式 ・まとめを書く <u>「江戸時代の外交政策はどのように変化したのだろうか。」</u> ・学習計画表にふり返りを書く	江戸幕府の対外政策について、自分で設定した課題を主体的に追究、解決しようとしている。（態度）
7 ま と め あ げ る	・学習課題（単元を貫く学習課題）に対するまとめを書く <u>◎「なぜ江戸幕府の支配は約260年も続いたのだろうか。」</u> ・意見を共有（気づきスターを探せ）※発表形式 ・学習計画表にふり返りを書く	江戸時代が約260年続いた理由を、幕府の諸政策の目的と関連付けて考察し、表現している。（思判表） 江戸幕府の成立と対外関係について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。（態度）

11. 【研究の成果と課題】

① 実践モデルプログラムについて

【成果】

- 授業の流れを実践モデルプログラムに基づいて習慣化することで学習過程が見通せることができて、意欲的に学習に取り組む生徒が増えた。(事後アンケートでも「社会科の学習が好き」と答えた生徒が6割から8割に増えた)
- 単元を貫く問いを意識しながらそれぞれの授業に関連性をもたせることで、多面的・多角的な思考ができるようになった。※資料10
- 授業者はチェックシートを活用することで、学習のねらいを明確にしながら授業が設計できるなど、授業力の向上につながった。

【課題】

- 協働的な学びの時間をもっと確保したかった。(単元によっては説明に多くの時間を要したり、協働的な活動をメインにしたりする場合には、活用できない場合がある。)
→すべての授業に取り入れようとするのではなく、単元内で部分的に活用する。

②-1 「学習の見通し」の場面について ※資料6

【成果】

- 学習計画表を用いて計画とふり返しを行うことで、今日は何をすべきか、前回はどこまで進めたか、次は何をすべきかなど整理ができて、集中力が増した。
- グーグルスライドを用いて班ごとに共有したことで、他の人がどんなことを考えて学習を進めているか知りながら、自分の学習に活かしていた。
- 前回の授業を欠席した生徒も、授業の流れを把握することができた。
- 実践モデルプログラムに基づいて行われる授業が学習計画表によって可視化されることで、生徒が試行錯誤(調整)しながら学習を進めていることを教員が把握できた。

【課題】

- 作成に時間がかかった。(5分前後)
→継続的な活用で作成を上達させる。
- 作成が面倒に感じたり時間がなくて後回しにしたりする子もいた。(計画表に空欄があった)
→計画表の確認と声かけでサポートする。
- グーグルスライドをクラス全員で共有しようとしたが、操作や表示に遅延が生じてしまった。
→ネット環境に応じてICTを活用する。

②-2 「学習課題を解決するための活動」の場面について

【成果】

- 自分で「調べ深める」時間をつくることで生徒それぞれ異なった時間の使い方をしていた。

生徒の声

- ・既習事項を改めて調べて理解を深めていた生徒、友だちと確認し合って曖昧だったことがは

- ・つきりと理解できた生徒：「鎖国ってなんだっけ？」…「そういうことだったのか！」※資料 11
- ・これまで習ったことをしっかり理解していた生徒：「まずこの制度がどのようなメリットやデメリットがあったのかを調べています。」
- ・普段からノートを取ることが課題の生徒：「ドキュメントに入力してもいいですか？」「黒板にみんなが分かるように書いてもいいですか？」※資料 12
- ・社会科が苦手だったり勉強が好きではなかったりする生徒：「(友だちに) 一緒に調べよう」「タブレット端末で共有ノートを作って作業してもいいですか？」

○調べたことを分かりやすく伝えるように工夫していた。

生徒の声

・情報がたくさんあって文章で書くと長くてわかりづらいと感じた生徒：「どうやって書こうかな？」「この言葉の意味って何だろう？」「(友だちに) どうやって書いているの？」…「分かりやすい簡単な言葉に置き換えています。」「短くまとめようと思います。」「一覧表を作っています。」※資料 13

○協働的な学びを入れることで視野が広がり、課題（自分目標）が設定しやすくなった。

（キーワードを提示することなく、多くは生徒から出てきた）※生徒のノート 資料 13、14

○「気づきスターを探せ」の活動では、ノートにたくさんの気づきスター（友だちの意見や考え）を残そうと色んな人の話をよく聞く姿がみられた。※生徒のノート 資料 13、14

○協働的な学びから多面的・多角的に考える力が身に付いた。※生徒のノート 資料 15、16

【課題】

●調べる手段がほぼインターネットになり、「調べ深める」材料が足りなかった。

→事前に学校の図書室や町の図書館で関係する本を借りて用意する。

●生成 AI を使っていた生徒がいた。

→正しい情報が確認する習慣をつける。生成 AI についての理解や指導も必要と感じた。

●課題が設定できず、何を調べたらよいか分からない生徒やただの意味調べで終わってしまい、深めることができていない生徒がいた。

→机間巡視で教員がサポートする。

●「気づきスターを探せ」の活動で、気づきを探したが見つからなくて書けない生徒がいた。

→探そうという意欲がみられたか、他の場面で逆に気づきを与えていたかを記録する。

●調べる時間がもっと欲しいとの声が多かった。

→課題設定を工夫する。情報や資料の選定をする。

②-3 「学習のふり返し」の場面について

○毎回の授業のふり返しを行うことで次にやるべきことが明確になり、回を重ねるごとに調べたことを記入したノートの枚数が増えてきた。

○知識を身に付けたり、自分の考えがまとまったりしている変化の過程を教員が把握できた。

○内容ごとのまとめや単元を貫く問いに対するまとめが、学習のねらいに沿った内容がほとんどであった。※生徒のノート 資料 15、16

○書かれているまとめの内容が、多面的・多角的な視点で書かれているものが増えた。

※生徒のノート 資料 15、16

【課題】

- 調べる時間が欲しいあまり、ふり返りを簡単に済ませる生徒がいた。
→ふり返りの時間の確保、他生徒の好事例を紹介する。
- よく調べて考えた形跡があるが、まとめの内容がたんぱくであった生徒がいた。
→レベルや内容に応じて、キーワードを提示したり穴埋め形式にするなどの工夫をする。
- 評価の際に、ノートと計画表をそれぞれ見る作業でかなりの時間を要した。
→計画表で入力できる欄をつくる。ICTの『効率的かつ効果的な』活用の検討をする。

③ 検証授業を行なった後のアンケートや定期テストの結果について ※資料 3、4

【成果】

- 問 1、2 の結果から、興味・関心をさらにもたせることができた。
(分析) 自分で考えることが楽しい。なぜ、どうしてを色んなメディアを通して解消したい。
- 問 3 の結果から自分の考えをまとめる作業の回答で肯定的な意見が増えた。
(分析) 自分のペースで追究していくことで内容への理解が深まる。協働的な学びの活動でまとめる作業に向かうための足場かけ(スキヤフォールディング)になった。
- 問 5、6 の結果から、自分で設定した課題を追究する授業に肯定的な意見が増えた。
(分析) 学びに向かう力が身に付いてきている。この力が知識・技能や思考力・判断力・表現力など他の力の底上げに関係している。
- 定期テストでは、1 学年時の定期テスト 4 回分の平均点が 55.7 点であったが、直近の 2 学年時の定期テストは平均点 63.7 点であった。
(分析) 知識・技能、思考・判断・表現の観点がいずれも上がっていたことから、自らの考えを形成できる自立した学習者を育てることが学力向上にもつながることが分かる。

【課題】

- 問 3 や問 5 では肯定的な意見が増えたが、中間層は多いままであった。
(分析) 繰り返して続けていくことが必要。また、初めはプリントを用いたり、キーワードを提示したりするなどしてねらいに導いていくと良いのかもしれない。
- 問 6 で「先生の話聞いて進める授業」や「一斉授業」と回答した生徒が少数ながらいた。
→孤立させないように支援が必要な生徒へのサポートをする。「最適」な授業を追究する。

真珠粉

資料1 「個別最適な学び」と「協働的な学び」に関する資料

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して

～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)(概要)

令和3年1月26日
中央教育審議会

第1部 総論

1. 急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力

- 社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」の到来
- 新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」

新学習指導要領の着実な実施

ICTの活用

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要

2. 日本型学校教育の成り立ちと成果、直面する課題と新たな動きについて

成果

- 学校が学習指導のみならず、生徒指導の面でも主要な役割を担い、児童生徒の状況を総合的に把握して教師が指導を行うことで、子どもたちの知・徳・体を一体で育む「日本型学校教育」は、諸外国から高い評価
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、全国的に学校の臨時休業措置が取られたことにより再認識された学校の役割
 - ①学習機会と学力の保障 ②全人的な発達・成長の保障 ③身体的、精神的な健康の保障（安全・安心につながる生活環境・セーフティネット）

課題

子どもたちの意欲・関心・学習習慣等や、高い意欲や能力をもった教師やそれを支える職員の力により成果を挙げる一方、変化する社会の中で以下の課題に直面

- 本来であれば家庭や地域でなすべきことが学校に委ねられることになり、結果として学校及び教師が担うべき業務の範囲が拡大され、その負担が増大
- 子どもたちの多様化（特別支援教育を受ける児童生徒や外国人児童生徒等の増加、貧困、いじめの重大事態や不登校児童生徒数の増加等）
- 生徒の学習意欲の低下
- 教師の長時間勤務による疲弊や教員採用倍率の低下、教師不足の深刻化
- 学習場面におけるデジタルデバイスの使用が低調であるなど、加速度的に進化する情報化への対応の遅れ
- 少子高齢化、人口減少による学校教育の維持とその質の保証に向けた取組の必要性
- 新型コロナウイルス感染症の感染防止策と学校教育活動の両立、今後起こり得る新たな感染症への備えとしての教室環境や指導体制等の整備

教育振興基本計画の理念
（自立・協働・創造）の継承

学校における
働き方改革の推進

GIGAスクール構想の
実現

新学習指導要領の
着実な実施

必要な改革を躊躇なく進めることで、従来の日本型学校教育を発展させ、「令和の日本型学校教育」を実現

3. 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿

①個別最適な学び（「個に応じた指導」（指導の個別化と学習の個性化）を学習者の視点から整理した概念）

- ◆ 新学習指導要領では、「個に応じた指導」を一層重視し、指導方法や指導体制の工夫改善により、「個に応じた指導」の充実を図るとともに、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整えることが示されており、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ることが必要
- ◆ GIGAスクール構想の実現による新たなICT環境の活用、少人数によるきめ細かな指導体制の整備を進め、「個に応じた指導」を充実していくことが重要
- ◆ その際、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、学びの動機付けや幅広い資質・能力の育成に向けた効果的な取組を展開し、個々の素性の経済事情等に左右されることなく、子どもたちに必要な力を育む

指導の個別化

- 基礎的・基本的な知識・技能等を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するため、支援が必要な子どもにより重点的な指導を行うことなど効果的な指導を実現
- 特性や学習進度等に応じ、指導方法・教材等の柔軟な提供・設定を行う

学習の個性化

- 基礎的・基本的な知識・技能等や情報活用能力等の学習の基礎となる資質・能力等を土台として、子どもの興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子ども自身が学習が最適となるよう調整する

- ◆ 「個別最適な学び」が進められるよう、これまで以上に子どもの成長やつまづき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや、子どもが自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことが求められる
- ◆ その際、ICTの活用により、学習履歴（スタディ・ログ）や生徒指導上のデータ、健康診断情報等を利活用することや、教師の負担を軽減することが重要

それぞれの学びを一体的に充実し

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる

②協働的な学び

「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、探究的な学習や体験活動等を通じ、子ども同士で、あるいは多様な他者と協働しながら、他者を価値ある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実することも重要

集団の中で個が埋没してしまうことのないよう、一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせられ、よりよい学びを生み出す

- 知・徳・体を一体的に育むためには、教師と子ども、子ども同士の関わり合い、自分の感覚や行為を通して理解する実習・実験、地域社会での体験活動など、様々な場面でリアルな体験を通して学ぶことの重要性が、AI技術が高度に発達するSociety5.0時代にこそ一層高まる
- 同一学年・学級はもとより、異学年間の学びや、ICTの活用による空間的・時間的制約を超えた他の学校の子供等との学び合いも大切

資料2 令和6年度県標準学力テストの結果

中学1年	主体的に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現
本校得点	79.3	61.0	51.8
県平均	82.1	60.6	51.0

資料3 定期テストの結果

採点システムのデータから	合計点の平均	知識・技能（正答率）	思考・判断・表現（正答率）
昨年度（4回分の平均）	55.7点	59%	47%
本年度（第1回）	63.7点	64%	63%

資料4 アンケート結果

※実施前1学年時、実施後2学年時120人が回答

1. 社会科の学習は好きですか								
実施前	好き	33.3%	すこし好き	26.7%	すこし嫌い	32.5%	嫌い	7.5%
実施後		40%		40%		17.5%		2.5%
2. 社会科に関するメディア（テレビ番組、新聞、雑誌、動画など）をみますか。								
実施前	よく	30%	たまに	35.8%	あまりみ	19.2%	全く	15%
実施後	みる	30%	みる	48.3%	ない	17.5%	みない	4.2%
3. 自分の考えをまとめる作業は好きですか。								
実施前	好き	15%	すこし好き	21.7%	すこし嫌い	42.5%	嫌い	20.8%
実施後		24.2%		40%		30%		5.8%
4. グループで考えたり、お互いの意見を共有したりする活動は好きですか。								
実施前	好き	38.3%	すこし好き	46.7%	すこし嫌い	12.5%	嫌い	2.5%
実施後		42.5%		44.1%		11.7%		1.7%
5. 自分で課題を見いだして、追究することはできますか。								
実施前	できる	10.8%	やや	28.3%	あまり	44.2%	できない	16.7%
実施後		23.3%		43.3%		できない		25%
6. 社会科の授業でどのような学び方が好きですか。（記述回答）								
実施前	グループワーク(30)、映像をみる(22)、写真から読み取る(13) ゲーム感覚で学ぶ(6)、豆知識を聞く(5)、他							
実施後	課題を追究する(35)、グループワーク(28)、意見を共有する(16) 映像をみる(8)、先生の話聞いて進める授業(4)、他							

実践モデルプログラムを活用した授業のためのチェクシート

授業の準備	見たい	自分で取り扱う	広げ深める	まとめ時
☐ 本単元（本時等）を通して、資質・能力が育成された児童生徒の具体的な姿を、観点別の目標に基づいて描いている。 ☐ 児童生徒の、発問に対する反応や課題に対する考えを予想している。 ☐ 本単元（本時等）で資質・能力の育成できたか評価する手立てを準備している。 ☐ 児童生徒が働かせるべき「見方・考え方」を理解している。 ☐ 「見方・考え方」を働かせた児童生徒の思考の過程が表れるような板書を計画している。	☐ 児童生徒が自ら疑問をもつことができるような資料や発問を準備している。 ☐ 既習の内容や方法を振り返り通る場面を設定している。 ☐ 児童生徒が課題を明確にすることができるように、疑問を整理して焦点化している。 ☐ 本単元（本時等）の目標（めあて・ねらい）を児童生徒に明示している。	☐ 児童生徒が解決の見通しをもつことができるように、学習のめあてや既習の内容等との相違点等を児童生徒とともに確認している。 ☐ 児童生徒が自ら情報を収集し調べることができるように、環境等を用意している。 ☐ 児童生徒が自分の考えを形成したり、思いや考えを基に創造したりする時間を確保している。 ☐ 児童生徒が「見方・考え方」を働かせながら課題に取り組みることができるように、取り組むときの視点や思考の進め方を指導している。 ☐ 児童生徒一人一人の様子を把握し、早めに解決できた児童生徒や、つまづいてしまっている児童生徒に対する次の手立てを準備している。	☐ 児童生徒が自分の考えを伝える場面を設定している。 ☐ 児童生徒が「見方・考え方」を働かせながら、根拠とともに自分の考えを伝えることができるように指導している。 ☐ 児童生徒が多様な考えを理解できるように、互いに学び合う場面を設定している。 ☐ 児童生徒が友達や自分の考えを聞き、疑問点を問い直すことができるように、自分の考えと比べながら聞くなど、聞き方の指導をしている。 ☐ 児童生徒が新たな考えに気付くことができるか確認し、自分の考えや学びを修正することができるように、個に応じた助言をしている。	☐ 児童生徒が板書やノート、作品等を通して思考の過程を振り返り、学んだことをまとめめる場面を設定している。 ☐ 「深い学び」につながる本単元（本時等）のまとめを、児童生徒の言葉で予想・準備し、書く時間を確保している。 ☐ 児童生徒が学んだことを確実に身に付け、「見方・考え方」を今後の学習や生活にどのように生かすか考える場面を設定している。 ☐ 児童生徒が新たな疑問をもつことができるような発問を準備している。

* 上記の項目は、毎時別（または毎単元）全ての項目を確認することを推奨するものではない。
授業改善の観点として、指導要領の作成や既習内容等を踏まえて活用すること。

資料6 「学習の見通し」についての資料—学習計画表—

学習計画表

名前(※※ ※※)

単元課題

なぜ江戸幕府の支配は約260年続いたのだろうか。

単元目標

江戸幕府の体制と対外政策から近世の変化の様子を様々な角度から考えてみよう。

本時の課題

江戸幕府はどのようにして全国を支配していったのだろうか。

本時の計画

＜すること＞
予想を書く
板書を写す
振り返りを書く

＜時間＞
5分
30分
5分

予想

参勤交代のような制度をたくさん作ったと思います。

ふりかえり

＜うまくいったこと・わかったこと＞
武家諸法度や幕藩体制など他の制度もあることがわかりました。
＜うまくいかなかったこと・理由＞
特にありません。

本時の課題

江戸幕府はどのようにして全国を支配していったのだろうか。

本時の計画

＜すること＞
マトリックスを書く
自分目標を書く
調べ深める
振り返りを書く

＜時間＞
10分
5分
25分
5分

自分目標

鎌倉時代からの幕府の体制を比較します。

ふりかえり

＜うまくいったこと・わかったこと＞
江戸幕府は大名を厳しく支配することで反乱を起こさなかったことがわかりました。
＜うまくいかなかったこと・理由＞
鎌倉幕府と室町幕府を覚えていなかったため時間がかかってしまいました。

本時の課題

江戸幕府はどのようにして全国を支配していったのだろうか。

本時の計画

＜すること＞
調べ深める
意見を共有する
まとめを書く
振り返りを書く

＜時間＞
20分
10分
10分
5分

自分目標

幕藩体制以外に江戸幕府に対する反乱をどのように防いだかを調べます。

ふりかえり

＜うまくいったこと・わかったこと＞
武家諸法度や参勤交代などの制度で大名の力を抑えていたことがわかりました。
＜うまくいかなかったこと・理由＞
時間がなくてまとめまで書けませんでした。

本時の課題

江戸時代の対外政策はどのように変化したのだろうか。

本時の計画

＜すること＞
予想を書く
板書を写す
振り返りを書く

＜時間＞
5分
30分
5分

予想

鎖国をしたから外国とは貿易を行わないようにしたと思います。

ふりかえり

＜うまくいったこと・わかったこと＞
鎖国でも貿易をしていたことがわかりました。
＜うまくいかなかったこと・理由＞
鎖国をしなかったらどうなっていたのか気になりました。

学習計画表

名前(※※ ※※)

単元課題

なぜ江戸幕府の支配は約260年続いたのだろうか。

単元目標

江戸幕府の体制と対外政策から近世の変化の様子を様々な角度から考えてみよう。

本時の課題

江戸時代の対外政策はどのように変化したのだろうか。

本時の計画

＜すること＞
マッピングを書く
自分目標を書く
調べ深める
振り返りを書く

＜時間＞
10分
5分
25分
5分

自分目標

鎖国したことで江戸幕府の安定にどのような効果があったのかを考えていきます。

ふりかえり

＜うまくいったこと・わかったこと＞
マッピングでキリスト教も対外政策に関係するとわかったので、次は調べたいと思います。
＜うまくいかなかったこと・理由＞
特にありません。

本時の課題

江戸時代の対外政策はどのように変化したのだろうか。

本時の計画

＜すること＞
調べ深める
意見を共有する
まとめを書く
振り返りを書く

＜時間＞
20分
10分
10分
5分

自分目標

キリスト教の禁教令がどのような影響を与えたか調べたいと思います。

ふりかえり

＜うまくいったこと・わかったこと＞
キリスト教が入ってきて仏教勢力が強くなった後、キリスト教も禁教令が出されて幕府の権威が上がったんだとわかりました。
＜うまくいかなかったこと・理由＞
スターがあり書けませんでした。

本時の課題

なぜ江戸幕府の支配は 260年も続いたのだろうか。

本時の計画

＜すること＞
まとめを書く
意見を共有する
振り返りを書く

＜時間＞
20分
10分
10分

自分目標

これまで調べたことを活用してまとめていきます。

ふりかえり

＜うまくいったこと・わかったこと＞
徳川の人々をまとめを聞いて、当時の人の気持ちに気づくことができました。
＜うまくいかなかったこと・理由＞
徳川の人々に当時の人々の気持ちや考えまで書けませんでした。対外はそこまで考えようとは思わなかったからです。次から考えていきます。

本時の課題

本時の計画

＜すること＞

＜時間＞

自分目標

ふりかえり

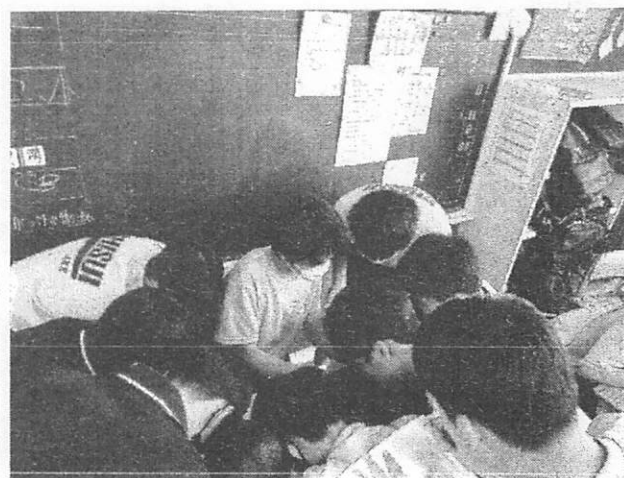
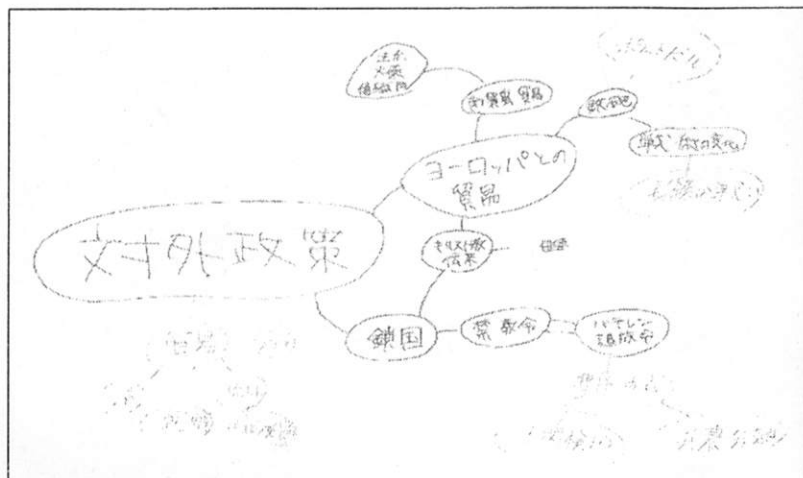
＜うまくいったこと・わかったこと＞
＜うまくいかなかったこと・理由＞

資料7 「学習課題を解決するための活動」についての資料—マトリックス表—

	ヨーロッパ	戦い	政策
織田	ヨーロッパの地図 ヨーロッパの国々 ヨーロッパの文化 ヨーロッパの歴史 ヨーロッパの地理	戦いの地図 戦いの国々 戦いの文化 戦いの歴史 戦いの地理	政策の地図 政策の国々 政策の文化 政策の歴史 政策の地理
豊臣	ヨーロッパの地図 ヨーロッパの国々 ヨーロッパの文化 ヨーロッパの歴史 ヨーロッパの地理	戦いの地図 戦いの国々 戦いの文化 戦いの歴史 戦いの地理	政策の地図 政策の国々 政策の文化 政策の歴史 政策の地理
徳川	ヨーロッパの地図 ヨーロッパの国々 ヨーロッパの文化 ヨーロッパの歴史 ヨーロッパの地理	戦いの地図 戦いの国々 戦いの文化 戦いの歴史 戦いの地理	政策の地図 政策の国々 政策の文化 政策の歴史 政策の地理

資料8 「学習課題を解決するための活動」についての資料
—イメージマップ—

資料9 「学習課題を解決するための活動」についての資料
—意見を共有（ワークショップ方式）—



資料 10

「学習課題を解決するための活動」についての資料
—生徒のノート 1—

学習問題のまとめ

近世では、どのように社会が安定したのか。

キーワード

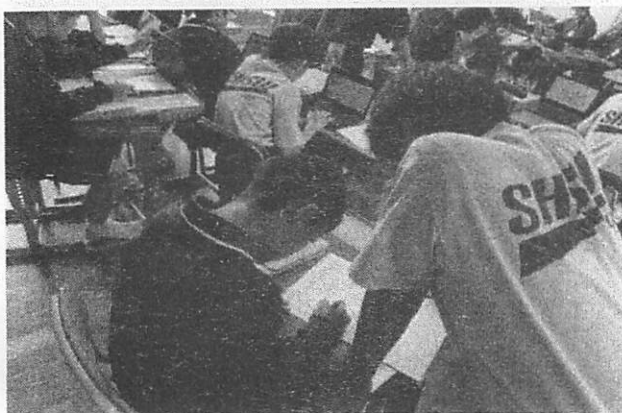
- ・全国統一
- ・大名の支配
- ・改革

- ① 全国統一で戦乱がなくなり平和になった。そして
武家諸侯で大名を厳しく支配したり、鎖国を行
い外国との争いを避けたことや、国を安定させ
やすくするためにキリスト教を禁じたことで社会
を安定させやすくなった。
加えて、徳川幕府などの改革で、財政難などを乗り切った
ため、さらに安定しやすくなり、長く江戸幕府が続いた。

資料 11

「学習課題を解決するための活動」についての資料

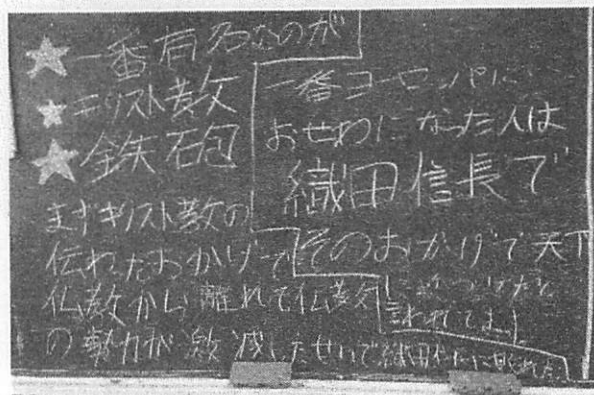
—活動の様子—



資料 12

「学習課題を解決するための活動」についての資料

—ノート作りができない生徒への対応—



資料 13

「学習課題を解決するための活動」 についての資料 —生徒のノート 2—

第1回

①江戸幕府はどのようにして全国を支配していたのだろうか

- ・江戸幕府はどのように支配をしたのか (後)
- ・どのように諸藩を統制したのか (前)
- ・江戸幕府はどのように支配したのか? ~

1600年 関ヶ原の戦い

西軍(石田三成) vs 東軍(徳川家康)

→勝利したことにより徳川氏に任命された。

(江戸幕府の成立)

↓

②大名の統制

徳川氏 (徳川氏の一族)

徳川氏 → 関ヶ原の戦い以前から徳川氏に仕えていた大名

徳川氏 → 関ヶ原の戦い以後に徳川氏に仕えた大名

1600年以上の
徳川氏に仕えた
大名

大名の統制

・1615年に定められた、大名が守るべき法律。

→大名が幕府の許可なく城を修繕することや結婚することを禁じた。

さらに1653年、3代将軍徳川家光は参勤交代の制度を追加した。

参勤交代

・大名を1年ごとに江戸に住ませ、大名の謀反を防止した。

→参勤交代の費用や江戸での生活費は大名が負担したため、出費が少なくなった。

(参勤交代は、出費が少なくなった。)

・大名の領地やその支配を藩という。

幕府は、藩や大名を統制する力を持っていた。



身分別の人口
の割合

③身分統制

各身分の職分

武士…名字と帯刀などの特権を持っていた。

百姓…全人口の85%を占め、生活、自給自足に近かった。

町人…城下町に住んでいた、商人や職人。

百姓・農村の役割

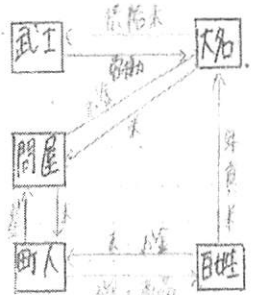
・農村が幕府や藩の経済を支えていた。

・百姓は新米や用水路を共同利用したり、田植えなど互相帮助して行い、助け合いながら生活していた。

・一方、また一方、いかに身分に対する差別。

☆ 各身分の役割を調べる

☆ 各身分の役割を調べる。これによって、江戸幕府は江戸幕府にとって危険な存在はなくなる。



まとめ

江戸幕府は、大名・町人を統制して全国を支配した。

・江戸幕府は武家諸法度や参勤交代などの幕藩体制を確立して、大名を統制した。

・江戸幕府は身分制度による人口の階級を占める百姓が、その役割を果たす仕組みをつくり、財政の基礎を固めた。

そして武家諸法度・参勤交代・領地整理、賦金上げ、お寺住い普請の4つの政策で大名・町人の反乱を防止し、江戸幕府の安定した統治を確保するのに役立ちました。

次のページにも書いてあります。

外國之貿易之輸入

17. 10. 71

14. 07. 11

1	生糸	2	絹織物	3	紗糖	6	毒糖	9	絹織物	4	絹織物
4	2L ⁺	5	染糖	8	毛織物	7	毛織物	8	毛織物	9	毛織物
1	11 ⁺	2	11 ⁺	3	11 ⁺	4	11 ⁺	5	11 ⁺	6	11 ⁺

(何氏) 11月21日 140

1. 絹織物、原料

2	蒙華衣染工芸部	200
3	染小菓子作り、貴重部	200

9

唐明帝校異服御小物足貴

↑

萬曆四十二年

國手自來

↓

オランダ・清(中国)・朝鮮
琉球王国

↑

<貿易相手国が限定されてい<
た対策は？>

↓

鎖国したオランダ・ポルトガル

↑

キリスト教は邪教と見做された鎖国

↓

<土は何？>

↑

幕藩体制の強化

↓

技術の遅れ・国際的な情報不足
不平等条約の締結・貿易の独占

↑

<おかしなところ>
江戸幕府は外国の技術よりも
国の安定を優先した

琉球王国

貿易相手国が「安定した」といふ
「対策は？」

対策は？

ナリ入ノ教ハ邪教ニシテ鎖國ヲ利斷セシメ

中華民國二十七年七月

· 独立，文化形成
· 国内，安定
· 霸藩体制，强化

技術の進歩・國際の事情不足

不平等条約の締結・貿易の独占

〈おかし、たこと〉
・江戸幕府は外国の技術を取りこ

國の安定を優先した

√ - √. 2 > 書 178-★

★開國貿易→日本に
2. 重要

★ E - □ y N ° X t f 校 第 2 期

入札で新しい文化が育つ

大正
 五年
 五月
 五日

1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.

① 又 F 以外の国の通貨を C として

✕ 不 非

江戶幕府、仔細計及他、幕府上院入

新しき臺灣内容として、

録名黨内の要町衆は、村代征心人村東田清、柳信三、池田
達夫、敗政目、他の任組は全て同じで、
又、江戸黨府では他の任組には無からず任組に取入れ
新い幕府内容としていたことがわかった。

乙未年二月二十日 江戶幕府・文政十一年二月二十日 武王十太名正統第11乙未

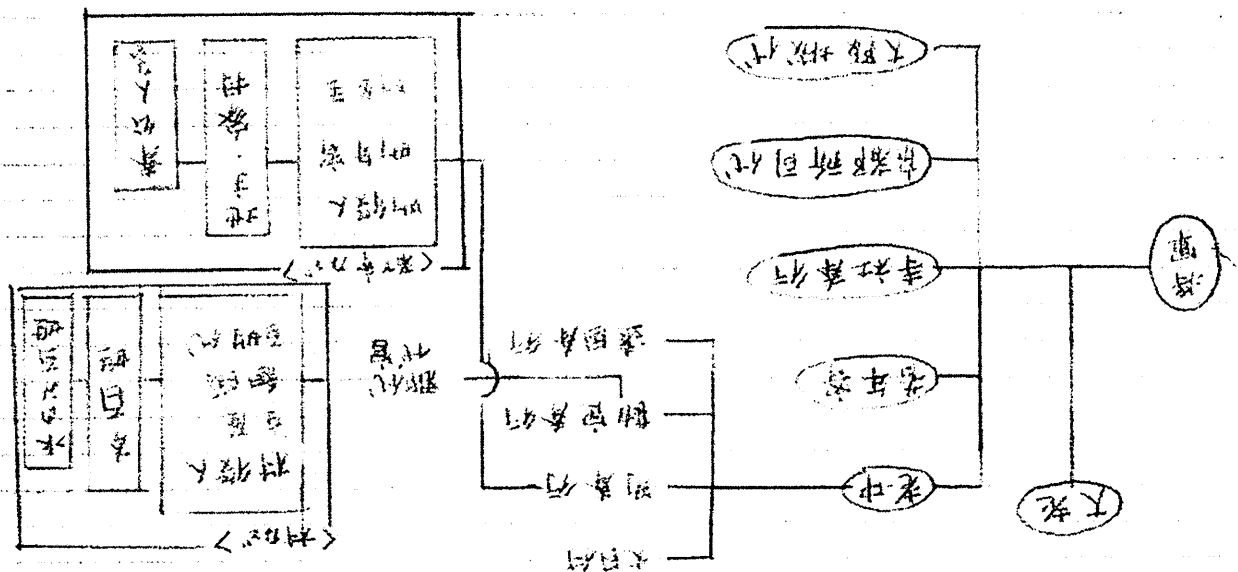
幕藩体制を打破し、大名に対しては武家諸法度より、規定以上の武力を蓄えることを禁じ、幕府に臣従を要した。

二〇二〇年二月二日。江戶幕府は全国に女園を設け、その数を増やした。

資料 16 生徒のノート 5

江戸幕府が、さき以前に、清洲同盟や政略結婚により、有力な大名を多く味方にし、関ヶ原の戦いにおいて勝利するにとつて、また大坂・陣中の豊臣氏を滅ぼし、全国を統一江戸幕府とした後は、藩藩体制や武家諸法度、参勤交代など大名を統制させ、外様大名などの信濃は、大名に負担をかせ、徳川幕府が目指す江戸幕府になつた。

(武士、町人、百姓、文化、文にんは、有利支配して居た。開港場を以て、支配と被支配の二つの階級が現れた。)



2014年7月14日 星期二 14时 苗林
2014年

参考文献

参考文献

- ・ 文部科学省 (2017) 「中学校学習指導要領」
- ・ 文部科学省 (2018) 「学習指導要領解説 社会編」
- ・ 中川一史 (2021) 「GIGA スクール時代の学びと授業づくり」 東洋館出版社
- ・ 石井英真 (2020) 『「個別最適な学び」とは何か』 教育学研究 第 87 巻
- ・ 宗實直樹 (2023) 『社会科「個別最適な学び」授業デザイン』
- ・ 木村明憲 (2024) 「自己調整方略」
- ・ 文部科学省 HP 『「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実』
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseioun/mext_01317.html
- ・ 千葉県教育委員会 HP 『「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム』
<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shidou/gakuryoku/zissenmoderu/moderupuro.html>
- ・ 情報学習支援ツール 木村明憲
<https://www.ak-learning.info/>